市岡小学校110年のあゆみ

創立以前

市岡のまちのはじまり



市岡小学校
マスコットキャラクター
『マナビ』

市岡の地名の由来

大阪では、古くからたびたび洪水に悩まされており、江戸時代初期から本格的な治水工事が始まりました。元禄期から江戸時代後期にかけては、活発に新田開発が行われます。 伊勢の商人であった市岡与左衛門（いちおか よざえもん）は九条村（現在の境川付近）に移住し、人々を集め、新田の開発を進めました。当時開発された40箇所におよぶ新田の中でも、与左衛門が開拓した「市岡新田」は最大規模を誇りました。



▲浪華名所獨案内（天保年間）（大阪歴史博物館蔵）

すいかの名産地

当時の市岡新田は、すいかの名産地として知られていました。砂地で水はけが良く良質なすいかが育ち、「市岡のすいかは種まで赤い」と評されるほど味の良さで評判を集めました。また、季節に合わせて米・綿・菜種なども栽培され、見渡す限り広々とした田園風景が広がっていました。



▲市岡新田会所跡

新田会所は、開発した土地や人の管理、収納などを目的におかれた施設で、ここには広大な屋敷があったと伝えられています。

波除公園の北西部に「市岡新田会所跡」の石碑が立っています。

できごと

1684年（貞享元年）	河村瑞賢が淀川治水工事を行う。
1698年（元禄11年）	市岡与左衛門が、市岡新田を開墾する。
1831年（天保2年）	安治川を浚渫した土砂によって、天保山が築かれる。 この後、天保山は桜の名所として浪速の名所になる。
1854年（嘉永7年）	天保山に黒船（ロシアのディアナ号）が来航する。
1868年（明治元年）	大阪港開港
1875年（明治8年）9月25日	**小学市岡学校創設** 明治6年以来、九条村の学校に連合していたが、この年から分離独立し、市岡新田字新開六番割第873番地の普通の民家を校舎として使用し、第六大区第二小区七番市岡小学校と称し、創立する。（明治11年の記録によれば、男子50人、女子47人が一人の先生に教わっていたとある。）
1888年（明治21年）7月5日	**市岡尋常小学校創設** 市岡新田北組スの割第443番地へ位置を改め、ここに校舎を新築移転する。
1889年（明治22年）	大阪市制施行。（現在の港区は西成郡川南村）